

新計画(案)に関する住民アンケートの意見と対応

区分	意見		意見への対応	
	分類	内容	反映度	対応内容
水質・水量	提案	堆積量の測定回数について、5年に1回は少ない。年1回は実施すべき。また、表層水ばかりでなく、沈殿物の調査も行うべき。	盛込み済み	測定(測量)に掛かるコスト等を考慮し、5年に1回の測定を予定しております。5年に1回の測量により堆積の傾向を把握し、浚渫する場合の効率化を図ることを考えております。底泥の影響については、溶出調査を検討します。
	提案	透明度の改善に向け、原因追究をお願いしたい。		佐鳴湖はその特性上、水深が浅く、風及び潮汐による逆流等により巻き上げが起こりやすく、透明度の向上には限界があると考えられますが、透明度が改善しない原因については現時点で未解明であるため、透明度に影響を与える因子の調査、分析を実施し、原因を究明した上で改善のための対策を見出したいと考えています。
	その他	透明度50cm以上にするためには、湖の自浄作用を高めるための調査などを実施するとのことですが、いつ結果が出るか疑問。		水質将来予測結果等、科学的な分析結果及び専門家の意見を踏まえ、当面の目標を8mg/L未満とし、環境基準の達成については計画の長期目標として設定しています。
	要望	環境基準の類型指定の時に関係者からのヒアリングその他、検討の結果、COD5mg/Lの類型に指定されたと思う。目標値として、設定すべきである。		水質・水量の取組の中で、よごれの量を減らす対策及び市民の水質浄化意識の向上のための対策を挙げています。具体的な取組として、排出源からのよごれの抑制及び道路側溝等の清掃、ホームページ及びパンフレット、イベント、出前講座等を通じた啓発等を実施します。
	要望	佐鳴湖へは、「汚れた水・汚い水は入れない」「湖内で汚濁は悪化させない」の目標を周知徹底、実行してほしい。		面源負荷対策としては、市街地及び農地からの面源負荷の軽減のため、流入河川へのごみ取りネット設置及び道路側溝等の清掃、エコファーマーの認定・育成などの取組を実施します。
	質問	面限負荷という目標はどうなったか。		水質・水量の取組の中で、未接続世帯への個別訪問及び郵送による下水道接続の啓発を行います。
	その他	町内(西山町)で下水道が引いていても、接続していない家庭がある。早急につなげば川もきれいになると思う。		浜松市の補助金による雨水浸透ますの設置は、既存住宅における既存ますとの交換費用も補助の対象としています。
	要望	雨水浸透樹の推進は既に実施されているが、さらに進めるためには新築、改築時だけでなく、既存の住宅でも積極的な補助金制度を設けて実施していくことが望まれる。		自浄作用を導く環境づくりのためには、汚濁負荷軽減及び湧水・地下水の増加などの対策が挙げられます。これらを具体的に実施する上で、水質・底質等の調査を行い、水質の汚濁メカニズムを明らかにすることで、汚濁軽減及び湧水・地下水増加の具体的手法の科学的裏付けをとりたいと考えています。
	質問	計画について、湖の自浄作用を高めるための調査などをするそうですが、具体的にどういふことをするか示してほしい。		今後の取組の参考とし、必要に応じて、関係機関や専門家等に確認します。
	要望	下水道法には、「下水道処理区域内の排水は下水道に接続しなければならない」との規定はないのか。あれば事業所等も接続しなければならないと思うが、接続状況は、また、接続されない場合の規制として上乘基準を制定すべきと考える。		上流部の管理が大切であることは御指摘のとおりです。定期的に除草は実施しており、今後も予算の範囲で定期的に除草作業を実施します。
	要望	佐鳴湖に入る川で木炭による水の浄化をしたらどうか。		地下水由来のものが多く、対策には長期を要しますが、面源系負荷対策を継続実施します。
	質問	竹炭を湖内に入れることはできるか。		今後の取組の参考とし、必要に応じて、関係機関や専門家等に確認します。
	要望	下流新川へ、大規模ろ過フィルターを設置すれば、水質改善に効果的だと思う。		住民参加型の調査イベントにより毎年4回、湖岸においても調査を実施しております。また、調査イベントでは住民にも理解しやすい指標で調査を実施しております。
	要望	接触酸化施設を増設する方が第一ではないか。		よろしくお願ひします。
	要望	流出入水量の何%かの能力の試験的な浄化施設で浄化しているにも関わらず、全体を浄化施設で浄化している」という悪いイメージを、市民に抱かせている。浄化施設の浄化能力(水量・水質等)を検討して、浄化施設を撤去する。	今後、下流河道で汚濁負荷量が多い堀留川流域において抜本的な治水対策の実施を検討しています。河川改修と併せて公共施設等を活用した雨水貯留施設の整備、下水道事業との連携等を検討しています。河川改修にあたっては、生態系にも配慮した構造を検討しています。	
	要望	過去の諏訪湖の視察、川口市の炭素繊維(猪鼻湖で使用)等実行可能なものはあると思う。	補助金による住宅への雨水浸透ます設置目標は3,200基としていますが、これ以外に、新築の事業場及び住宅に対して、地下水涵養のための雨水浸透施設の設置をお願いしています。また、雨水浸透に適さない地域を液状化の視点から把握するとともに、地下水調査により、地下水汚染等についても監視しています。	
	要望	上の水だけをきれいにしてもだめではないか。下の淀んでいるヘドロを湖の1/4づつ区切って、浚渫をしないと堂々巡りで何年やっても綺麗にならないと思う。	公共用水域水質調査や流域ワースト50地点調査等の継続により水質の調査・監視を継続して実施します。広報に関してはHPも含め、パンフレットやチラシ等、様々な広報媒体を活用し、より分かりやすい広報に努めます。	
	要望	北側の広い面積で汚泥を浚渫されてない場所が有り、深さは1m位でズブズブと腰まで浸かると報告されたのを記憶している。早急に、調査して事実なら浚渫すべきではないか。	透明度の改善に向けた調査・分析、対策を検討します。いただいた要望は長期的な目標に考えております。	
	要望	湖内浚渫内容の詳細について記載してほしい。特に浚渫箇所と事業概要について示してほしい。	段子川流域では下水道整備が進んでおり、生活排水による佐鳴湖へのよごれの流入は少なくなっています。しかし、降雨などによる路面や農地、周辺環境からのよごれの流入は存在しますので、清掃などによる周辺環境の美化は面源負荷削減につながります。また、雨水浸透ますの補助金対象地域である場合、ますの積極的な設置などのご協力を願ひすることもできます。CODなどの水質の状況は、天候などの自然の影響も受けるため、こういった流域対策を継続しながら、水質の継続監視を実施し、その動向を確認します。	
	その他	水質に大きな影響を及ぼす底質について、いつからどのように改変されたか、記載が不十分。かつてはヤマトシジミが生息していたと聞くが、現在の底質は浅いところは礫が混じっていて、シジミが潜在できない。シジミは砂に潜っていないと鳥や魚に捕食されるので、シジミが住めなくなったと考えられる。	いただいた御意見を参考に、今後も佐鳴湖の環境向上に努めていきます。	
	要望	佐鳴湖に流入する小河川の水草を年に数回刈り取る。大雨の後を見ると大量の水草が流れている。これらは佐鳴湖に流入し腐敗すると推測される。特に水温が高くなると水草の生長も速く、大雨の度に大量に流失している。上流部の管理も大切ではないか。		
	要望	新(西)川・東神田川の窒素含有量が多い原因の特定と対策を検討してほしい。		
	要望	接触酸化施設の付着物についての調査を実施してほしい。		
	要望	水質調査地点は、過去からの継続で実施されており変更は難しいと思うが、親水利用など人の利用を考えると湖岸が大切であり、調査地点を多くしてほしい。調査経費がかからない項目、調査方法、頻度、理解しやすい項目の選定が望まれる。漁業以外は湖心へはいかないため、市民の憩いの場である湖岸(水辺)が重要。		
	その他	湧水・地下水の調査に興味があるので、高校でできる範囲で協力したい。		
	要望	積極的な治水策が必要ではないか。具体的には、河川流入を補助するための休耕田を利用したの雨水貯留、周辺の浸透舗装の積極的普及による地下水増加と計画的湧水化、新旧新川に河口堰を設けて、潮流入を防ぐとともに、湖水の平均水位を今より確保など。生態系に配慮しつつ、より前向きな取組があるのでないか。		
	要望	雨水浸透ますの設置基数が不足ではないか。設置によるデメリット(地質不適合住居や地面の凹などの調査をしてほしい)。		
	要望	表3.4-4計画取組一覧表のうち「自浄作用を導く環境づくり」は、湖のこれまでのデータと経験からみて、佐鳴湖の汚濁負荷はまだ多く、蓄積が続く水域構造と生態系になっている。対策の推進とともに、水質の調査・監視の内容が不明瞭に思うので、湖岸の状況がわかる地図等を用いて、具体的な記述をしてほしい。また、「市民への情報発信は」、佐鳴湖の情報を例として、市のHPから見るのが困難だったので、簡単にできるようにしてほしい。		
	要望	60年前(子どもたちが遊泳・鯉が採れた)の佐鳴湖に戻りたい。		
	要望	早く透き通った綺麗な水を見たい。		
質問	段子川の流域に住んでいる住民として現状の生活を続けていればCODが現状維持されるということか。何もなくていいのか。			
その他	淡水魚が豊富で、市街地に位置する貴重な佐鳴湖の水質維持向上をことは計ることは、喫緊の課題である。			

区分	意見		意見への対応				
	分類	内容	反映度	対応内容			
自然・生物	提案	生息魚種「メダカ」は、分類変更により「ミナミメダカ」とすべきではないか。	今後の参考	学識に確認します。			
	要望	白鳥、クロツラヘラサギ、セイタカシギが来る湖、を取組に入れてほしい。		自然・生物については現状の生態系の調査を行い、学識の助言等を受けた上で、佐鳴湖に適した自然・生物種を検討予定です。御提案の生物も含めて、佐鳴湖に適した生態系を考えます。			
	要望	底生生物の住める環境づくりを望む。					
	要望	数ヶ所に浅瀬を設け、沈水植物が生育できる環境をつくる。枠で区切るのもよいかもしれない。					
	要望	都田川のシジミを佐鳴湖に入れるのは、死んでしまのでやめてほしい。					
	要望	佐鳴湖を代表する種について、現状の湖の生態系は貧相で偏っているように思う。集客効果や見かけのよさより、過去の水循環が良かったところの生態系をバックに、現在において水質浄化機能が高い種の生息の回復、希少種の再生・保護が望まれている生物相を大切に、将来像の生態系を想起して、種を選定してほしい。表3.2-1には、甲殻類・貝類などベントス類の種を追加してほしい。なお、ミサゴは、愛知県内の干潟で水質の良くない所で多い例があり、十分検討してほしい。					
	その他	佐鳴湖の漁業権魚種にワカサギが入っているが、現在ははずれていると思う。また、今の佐鳴湖にはいないと思われる。			ワカサギは漁業権魚種に入っていない。		
	要望	最近信頼性のある魚類調査がなされていない。水中の環境変化を見るためにも、地域協議会主導で年に2回以上は行うべきだと思う。また、浜名湖の水産資源量と連動しているように感じるので、浜名湖の漁業を考える上でも重要な調査であると思う。			今後の取組の中で、現状の生態系の調査を行う予定です。浜名湖の水産資源量との相関については必要に応じて学識に確認するよう考えます。		
	要望	表3.4-4計画取組一覧表のうち「豊かな生息環境の創出」については、今後大きく抜く取組であると思うので、市民と多く議論して、現地実験等より多くの内容を検討してもよいと思う。			今後の参考	今後の取組の参考とし、必要に応じて、関係機関や専門家等に確認します。	
	要望	湖岸の整備(公園化)により、市民にとって安全で景観のよい水際になったが、依然の佐鳴湖の水際とはかなり違ったものになったと思われる。部分的にでも少しずつ、かつての水際(底質、植生)を回復させてほしい。					
	要望	計画中に「覆砂」との言葉あったが、該当区間の底質は、シジミが生息できるような砂～細砂では構成されていない(礫が混じる場合、「砂」とは言えないと思う。佐鳴湖のような下流部の湖沼はその流出河川に、径5cm以上の礫が混じることとは異常と思う。自然再生を目指す場合には、堆積場にあった底質に戻すべきだと思う。					
	要望	ヨシは刈取りでは回収に限度がある。また、ヨシの茎で水田害虫が越冬する。手賀沼では、ヨシを焼き払うと付近の水田での殺虫剤散布を1回減らせると言われている。作ってしまったヨシ原について、汚濁防止の観点から撤去して砂浜に戻すか、存続させるならヨシ焼きを検討するとよい。					地域住民の方々と協力して行うヨシ刈イベントは、佐鳴湖における住民参加による水環境向上に向けた取組として今後も継続して実施していくよう考えております。
	要望	現在、佐鳴湖では外来生物を何らかの形で捕獲しても行政として受け入れる体制がとられていない。仕方なく、捕獲した人はそのままリリースするしかない。在来種が駆逐され、外来生物のみが生息する環境は尋常とは言えない。帰化生物の取り扱いについてのマニュアルを早急に提示する必要がある。					外来生物の駆除については、鳥獣保護法で捕獲が規制されている哺乳類・鳥類を除き、誰でも行うことができます。但し、魚類や爬虫類であっても、湖内や公園内の池で罠をしかけて捕獲するとなると、漁業関係者や管理者との調整が必要で、場合によっては許可が必要となる可能性もあります。
	要望	表3.2-2にミシシippアカミミガメが在来ガメとの交雑の害があるとの記載があるが、聞いたことがないし、それはないと思う。ただし、クサガメとニホンシガメの交雑はある。ミナミシガメでも交雑の問題がある。また、タイワンリスも含めて、浜松市としての姿勢(駆除か放置か、市民が駆除してよいか)をなるべく早く決定して公表してほしい。					ミシシippアカミミガメと在来ガメとの交雑の記載については、専門家等に確認します。外来生物の駆除については、鳥獣保護法で捕獲が規制されている哺乳類・鳥類を除き、市民でも行うことができます。市としては、農業被害、生活被害など市民生活への影響が大きい特定外来生物に対する対策を優先して行っていく方針です。
	要望	水質浄化から生物が持続して生息できる環境づくりの具体化、市民に利用される場づくりを具体化してほしい。					今後の取組の参考とし、必要に応じて、関係機関や専門家等に確認します。
	要望	行政が植栽のための苗木を提供するもよし、佐鳴湖内のシヤカシなどの常緑樹の種子から苗木を育成する市民参加のイベントをとおして緑化推進することも考えられる。					
	要望	時計台近くのメタセコイアを間引きをする。うす暗くて公園としてふさわしくない。					
質問	北岸のヨシの植生はどうなったか。						
質問	佐鳴湖のシジミは水質の影響で食べられないのでは。	その他	北岸は唯一、人の手が入らない自然環境が残されていることとなっております。今後、地域との意見交換等を通してより良い手法を検討、地域との合意形成を図りたいと考えます。				
			-				

区分	意見		意見への対応			
	分類	内容	反映度	対応内容		
周辺環境	要望	希望者の見学・資料などの展示等も出来るような建物にしてほしい。	盛込み済み	周辺環境の取組の中で、学習の場の必要性について協議し、既存施設(北岸管理棟)の活用を行います。		
	要望	現在遊歩道には、毎日大勢の人たちがウォーキングしているが、佐鳴湖の名所、旧跡等全く知らないといった実情。まず、この人たちが振り返るような標識・看板設置が必要ではないか。		佐鳴湖の利用者増加対策として、佐鳴湖の利用上のルールや、佐鳴湖の情報(水質、自然、歴史など)を発信するための看板を設置、管理を実施します。		
	その他	佐鳴湖に来て頂き、環境美化に関心を持ち、協力して頂ければよいと思う。		市民に利用される場づくり、美しい自然と豊かな環境づくりの対策の中で、利用者率を向上させるための取組及び環境美化のための清掃などを実施します。		
	要望	図2.5-14に市民の森についての記載がある。市の姿勢は結構だが、ここ数年、当該地区が相当開発されてしまった。その状況のまとめと総括がほしい。	今後の参考	今後の取組の参考とし、必要に応じて、関係機関や専門家等に確認します。		
	要望	東岸側の中央部から北端間を、景勝地・公園としての視点でチェックしてほしい。				
	その他	倒木・枯れ木等の切断木がアチコチに野積み・倒木の放置もある。				
	その他	浄化施設東側の遊歩道が狭い・凹地で雨水が溜まる。				
	要望	通歩道の新設区域の整備は勿論、既存の老朽化した遊歩道の整備に配慮が必要である。場所によっては、ウォーキングやジョギングの利用者が怪我をする危険のありそうな箇所が数多く見られる。早急な改善が必要である。				
	要望	架設ブルーシート張りの蜆ハウスを、景勝地・公園に合う建物にしてほしい。				
	要望	家族連れで楽しめる遊具等を設置し、より多くの方々に来ていただけたらと思う。				
	要望	家族連れで佐鳴湖に遊びに来て、楽しむ場所にしていくことも必要。				
	その他	佐鳴湖は水質で問題があるが、風景は良いし、ウォーキングできるし、とても素晴らしいところだと思う。				
	要望	佐鳴湖は街中にあるオアシスで非常に良いところだと感じている。是非これ以上の開発はせず使いよい空間してほしい。				
	要望	水質は見た目で見分かれず、利用者は関心しないのでは。利用者がいいねと思える環境があればよい。				
	要望	周辺施設の整備には景観・環境負荷に十分配慮してほしい。				
	その他	市民の憩いの場としてにぎやかになるのは悪いことではないと思うが、利用者が増えることによる治安・環境悪化が心配。				
	要望	公園利用の申請窓口をはっきりさせてほしい。			今後の取組の参考とします。また、必要に応じて関係機関等に確認します。	
	要望	利用制限の緩和をしてほしい。			今後の参考	今後の取組の参考とし、必要に応じて、関係機関や専門家等に確認します。
	要望	場所指定で火を使える所があると活動の幅が広がって行くと思うので、何処か一か所火と水の使える所を確保して頂きたいと思う。				
	その他	イベントを行いたい、火が使えないという公園の利用規定が障害になっている。				
	要望	現在、佐鳴湖周辺は火気厳禁となっているが、禁煙ではない。山火事を心配するのなら、禁煙にもすべきだし、適切な注意をすれば水際でバーベキューをするのも可能はず。有料バーベキュー場(駐車も有料)を設営するのはいかがか。				
	要望	公園内での火の使用はやめてほしい。(山火事の危険性)				
	要望	待望のランニングステーションは、民間、浜松市、県と連携し、盛り上げる仕組みをお願いしたい。具体的には、新計画の対策区分(市民に愛される場づくり)において、飲食の場の確保があるが、市民レベルの出店ブースもできるランニング施設にしてほしい。市民はこの民間施設に出店ブースができることを希望しているケースが多い。				
	質問	ランニングステーション設置により、ランニング者の増加が見込まれる。歩行者や車との事故が多くなるか。また、カフェ設置により、ゴミは増えないか。				
	質問	誘客のための環境整備をするそうですが環境や水質悪化につながらないか。				
	その他	休憩場所と軽食の施設ができることになりそうで、本当に良かったと思う。				
	要望	佐鳴湖周辺の飲食可能場所施設については、弁当やクレープ、ホットドッグを売る移動販売所や屋台、その他の可能性も含めて柔軟に進めていただきたい。そうすれば、水道や都市ガスなどの設備は必要ない。ただし、ガソリン発電機は使ってほしくない。電気が必要な場合でも、オートキャンプ場のような設備を作れば十分。				
	要望	土、日、祝日は環境学習会又は自然観察会を実施するこの中に月に1回2回の水質関係の案内又は学習会を入れてほしい。そのためには、'人'の存在が不可欠。ボランティアの募集を行わなければならないと思う。ボランティアも有償にするのか無償にするのかあると思うが浜北森林公園のやり方が参考になるのではないかと考える。				
	要望	佐鳴湖を市民にもっとよく、広報するためのイベントの企画をさせてほしい。				
	その他	環境に配慮した、地域のつながりを深めるようなイベントを佐鳴湖で実施したい。場所としては面白い場所なので、活用したいと思っている。				
	要望	エコファーマについて、市民(消費者、佐鳴湖利用者)との交流がない。そこをつながないと、意識が盛り上がりません。				
	その他	情報看板の設置も必要と思うが、その時々生きた情報(旬の情報)が解るような仕組みを作ることが出来ればと思う。たとえば、今西岸の炭焼き小屋の上のモミジが色づき始めている、又時計台の所に白いタンポポが咲き始めました等の情報を発信出来れば来園者の為にも参考に成るのではないか。この様な事を実施して行く中で特定外来種、絶滅危惧種、危険な動植物等の啓発も出て行くのではないかと考える。				
	要望	北岸管理棟は、佐鳴湖を利用する人たちが佐鳴湖の情報を得たり、情報を交換したりする場所として改善することが望まれる。				
要望	大平台の開発整備が終了した現在、湖岸周遊道を自家用車が通過することは適当でないと思う。西岸の適当なところで通過できないようにすることで、徒歩やランニング、自転車での利用者の安全と快適性が保障されると思う。					
要望	佐鳴湖地域活動への助成に期待している。研究活動等にぜひ活用したい。	佐鳴湖助成金制度を活用いただければと考えます。				
その他	ソーシャルネットワークを活用して、草の根、口コミで運動の輪を広げていけばよい。必ずしも行政発信でなくてよい。	その他			いただいたご意見を参考に、今後も佐鳴湖の環境向上に努めていきます。	
その他	佐鳴湖の理解を深めるために、交流会は大切である。	その他				
その他	ヨシ刈りの佐鳴湖型は非常に良いイベントである。	その他				
その他	捨て猫対策を豊橋のNPOは実施している。	その他				

区分	意見		意見への対応		
	分類	内容	反映度	対応内容	
その他	提案	行動計画の実施目標には、項目毎に主管する部課名等を記載してほしい。	盛込み済み	計画書3章「具体的な施策内容」において、施策を実施する主管課を記載しています。	
	提案	みらいをつなぐネットで地域の意見を取りこんでほしい。	今後の参考	佐鳴湖に関わる市民がより自立して活動できるような仕組みづくりを目指し、具体的な運営方法を今後検討します。	
	要望	みらいをつなぐネットと地域協議会に違いを明確にしてほしい。			
	その他	活動について、以前の行政担当に比べて、停滞しているように思う。当時は、目標がしっかりされており、それに対する行動(ハード面)が実施されていた。諏訪湖、川口市等に向き、知識の向上に努めた。今はそういう意欲はないのか。	その他	いただいたご意見を参考に、今後も佐鳴湖の環境向上に努めていきます。	
	要望	富塚は特養や老人ホーム、病院などの建設が多く、緑が減っている。行政間の連携を密にしてほしい。		一定要件を満たす土地の利用については、行政の関係部署が会議形式により事業者と調整する場が設けられており、今後もこのような体制を継続します。	
	その他	伊豆沼ではマコモダケを植えて、白鳥を呼び、観光資源としている。こういったうねりを生むような事業をやらなければならない。		いただいたご意見を参考に、今後も佐鳴湖の環境向上に努めていきます。	
	要望	イサザアミを活用して、商売や観光に目玉にするなどを検討してほしい。佃煮などにしてはどうか。			
	要望	会議について、フジヤマまちづくり室にまかれているが、会議がわかっているかどうか疑問。地域協議会、専門委員会にしろ、傍聴のみでなく、質問させてほしい。			
	要望	専門委員会について、専門家として、こういうことをしたら改善されるのではないかって案を出して欲しい。今までの議論を聞いていると味付けとしか思えない。相当の顧問料を払っていると思うが。			
	要望	会の開催連絡がいつも直前なので、もう少し早めに知らせてほしい。			
	要望	シジミの関係者による内部のやりとりが多い。全体を見据えた発言をしてほしい。シジミ関係者で解決して、結果のみの報告をするべき。			
	要望	図3.4.1の佐鳴湖浄化対策における役割分担は、分りにくい。協議会を中央にし、上に市民、下に佐鳴湖を配置し、ネット、プロジェクト、専門委員会を湖の上に並列にして、事務局など同じ表現は1つにして、市民が協議会とつなぎ、協議会が湖とつながるといったような機能配置を表現してはいかかが。			
	その他	佐鳴湖で漁業を営んでいる入野漁業協同組合がある。内水面としての佐鳴湖のことが取り上げられていないと思います。			いただいたご意見を参考に、今後も佐鳴湖の環境向上に努めていきます。また、今後、水産物の消費の拡大や漁業権の拡大など、具体的な展開がなされた際、必要に応じて内水面の専門家あるいは関係機関に意見を聴取したいと考えます。
	その他	水環境に取り組んでいらっしゃる協議会の方々に感謝する。			いただいたご意見を参考に、今後も佐鳴湖の環境向上に努めていきます。
	その他	今回の新計画の目標実現のために、本校自然科学科もその地の利を生かして、積極的に協力したい。			よろしくお願いします。
	その他	子細な研究考察資料に感銘した。湖水浄化だけでなく、市民生活とのつながりを深めることで、より環境改善への意識も高まるという視点に改めて気づかされた。			いただいたご意見を参考に、今後も佐鳴湖の環境向上に努めていきます。
その他	人間の進出で環境が変化した以上、「昔の姿をとりのどそう」との考え自体が、人間のエゴを含む。湖内湿地のように、より自然に近い形で人工的に環境を整備して、生態の力をかりるのがよいことと思う。自然の力をかり、人間の生活をもっと自然に対して「透明化」する、そういった方向が必要ではないか。				